

周辺環境へ配慮した発生土処理方法について①

☑ 発生土の処理

○ 発生土の処理については、地元自治体等と協議※の上、法令等に基づき適切に実施。

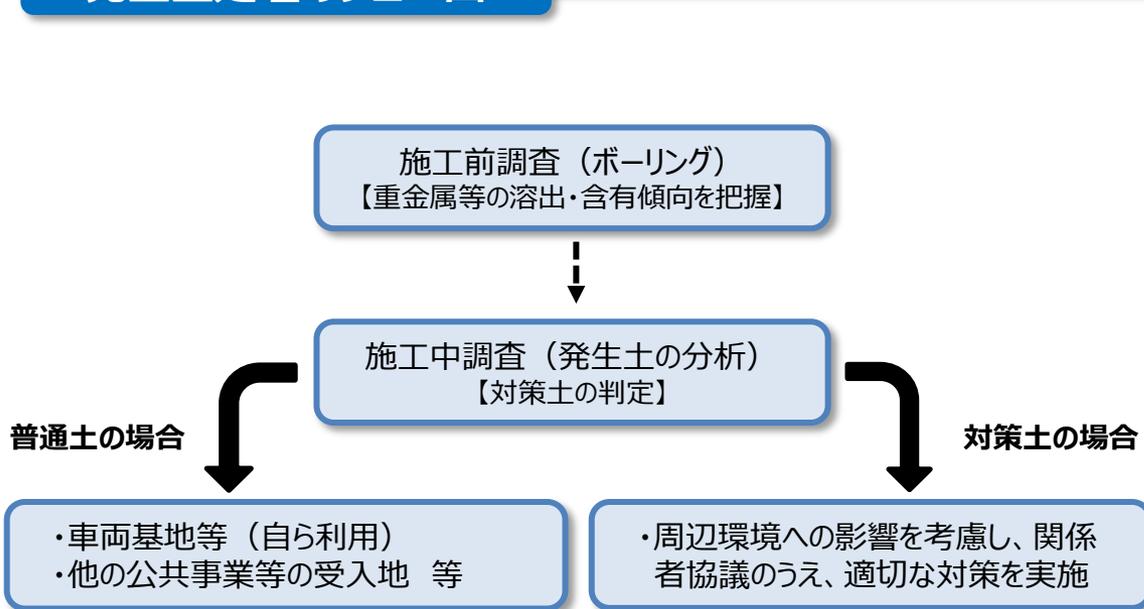
※受入候補地については、事業推進調査にて調査中

○ 工事により発生した土砂は、普通土と対策土（自然由来重金属等を含有する対策が必要な土）に分けられる。

– 普通土については、車両基地等での自ら利用や他の公共事業等の受入れ地へ運搬することを検討。

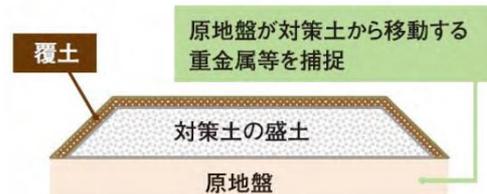
– 対策土については、自然由来重金属等の周辺環境への影響を考慮し、関係者協議のうえ、適切な対策を実施。

発生土処理のフロー図

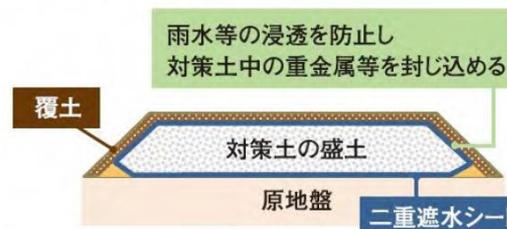


<対策土受入地における代表的な対策例>

原地盤活用（覆土対策）



遮水工封じ込め

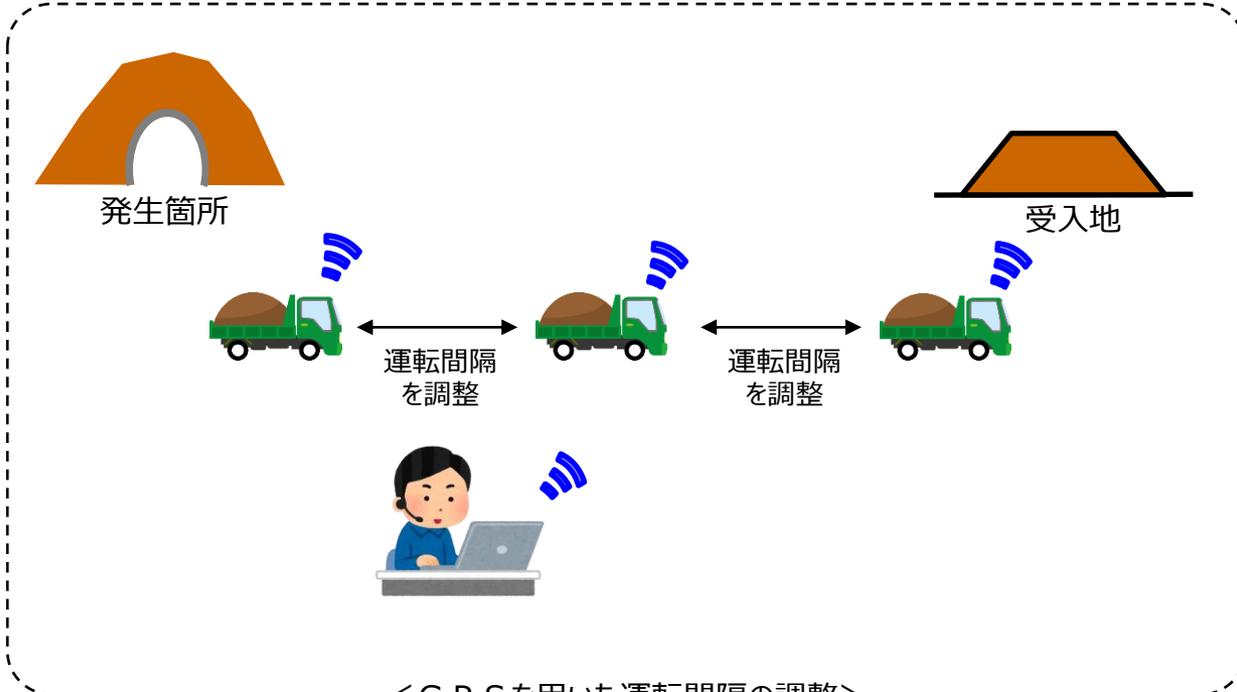


周辺環境へ配慮した発生土処理方法について②

☑ 発生土の運搬

- 発生土の運搬については、周辺環境への影響を考慮し、地元自治体等と協議の上、運搬方法を決定・実施。
- 運搬については、地元住民に丁寧な説明を行うとともに、「運搬の曜日・時間帯」、「登校時間帯における通学路への配慮」等を相談した上で、様々な影響の低減策を講じる。

発生土の運搬による影響低減策の例



<交通誘導員の配置>
※歩行者・一般車両を優先



<ダンプトラックのタイヤの泥洗浄>
※道路の美観、安全の保持



その他、関係者との協議の状況を踏まえ、適切に対策を実施

